海外 CASE 4

水原川

Suwon cheon

韓国

韓国の首都、ソウル市から約35km南に位置する水原市は、李氏朝鮮時代（1392～1910年）の城塞遺跡「華城」のある歴史文化都市です。市内には4つの川が流れており、その中で華城内を流れる唯一の川が水原川です。水原市は、李氏朝鮮時代の第22代国王・正祖（1752～1800年）により造られた韓国初の計画都市で、中心部の旧市街をぐるりと取り囲む城壁の全長は5.7kmにも及びます。華城は、韓国内に現存する城壁の中で、もっとも原形を留めている大変貴重な文化遺産となっており、1997年には、ユネスコの世界文化遺産に登録されました。

華城の北端、華虹門から城内を貫流し、人々の憩いの場として美しい風景を見せる水原川も、1970年代当時は、水質悪化による悪臭が問題視され、覆蓋工事により暗渠化されてしまいます。

華城と水原川の位置図（番号は写真の撮影位置）　Google Earth

1990年代、水原川の暗渠化中止と復元を願う市民の声が高まり、華城が世界文化遺産に登録されたことも一つのきっかけとなって、川の覆蓋撤去が市に受け入れられました。市民は世界文化遺産、そして水原の名に相応しい川にしようと立ち上がり、市と協力して知恵を出し合って、開渠化した水原川に自然豊かな水際の整備を行いました。1998年から７年間の工事を経て、華城を南北に縦断する地域の憩いの道が再び蘇ることになりました。

水原川自体は世界文化遺産ではないのですが、かつての水原川の姿を慕い、川を愛した市民によって守り続けられている川の遺産と言えるでしょう。工事後も市民団体による清掃活動や、水質・生物調査などが定期的に実施されており、良好な環境を保持されています。また、未着手区間の整備や、過去の洪水で消失した華城南側の水門の復元などの要請もあり、今後の展開が期待されます。

①上流側から華虹門を見る

④中間点の橋から上流を見る

②華虹門から下流を見る

⑤中間点の橋から下流を見る

③川辺で休む市民

⑥川を向いた町並み